

関する文献資料を調査蒐集する。

5. 調査項目

(1) 歴史的発展

華僑がどのようにして今日の発展をとげてきたかという経過を明らかにするもので、文献資料の調査研究を基礎とする。従来の編集資料のほか、現地における碑文や諸記録・文書等の調査に重点をおくゆえんである。

(2) 社会生活の変化

華僑が本国を離れてから、どのように生活が変化してきているかということ进行调查する。これらの同郷、あるいは同業団体の組織や運営、本国との関係、その地方的な特徴、さらには二世、三世等の世代別による差異等が対象となる。これらの調査は主として昭和39～40年度の本調査でとりあげる予定である。

6. 調査期間

70日

京都出発：昭和38年8月1日

京都帰着：昭和38年10月9日

7. 調査日程と地区

- (1) 8月4日～8月15日香港・マカオ・各大学・機関等の資料にもとづき、華僑の出入状況その他について調査する。
- (2) 8月16日～9月20日シンガポールおよびマラヤ連邦のクアラ・ルンプール、マラッカ、ペナン、イポー等の各地において、会館・寺廟その他主として華僑の公共施設を調査する。

- (3) 9月21日～9月30日バンコック、各機関、施設等を調査し、マラヤ地区との比較資料を蒐集する。

8. 調査報告

(1) 予報

「東南アジア研究」第3号昭和39年2月(刊行)に発表予定

(2) 本報告

「東南アジア研究センター調査報告書」として発表の予定。時期は本調査終了後に決定する。「備考」なお本調査は昭和39年末より昭和40年初にかけ、数名の協力者の参加を得て、やや長期間にわたり行う予定である。

国外からの訪問者

7月24日 Mr. Ahsan-Ud-Din, Regional Representative for Asia and the Far East. Food and Agriculture Organization of the United Nations

8月9日 Dr. Parchoom Chomchai, Assistant Professor of Economics and Political Science, Chulalongkorn University, Bangkok

9月11日 Dr. Hidetoshi Matsuo, Soil Science Specialist, FAO Regional Office in Bangkok

9月23日 Mrs. Gonzales, Assistant Professor, College of Mexico (Colegio de Mejico), Mexico.

” Miss Nonglak Ghooprasert, Mr. Withun Deepravat, Students of Kyoto University

研 究 例 会 記 事

年月日	発 表 者	題 名
38. 7. 3	志 村 喬 (名大・農)	ビルマの茶
	川 田 則 雄 (農林省)	ビルマ農業技術援助について
38. 7. 4	川田則雄氏を囲む座談会	
38. 8.21	平 沢 興 (京大総長)	東南アジア旅行の報告
38. 9.11	猪 木 正 道 (京大・法)	アジア研究年次大会に出席して
	西 田 龍 雄 (京大・文)	ヨーロッパにおけるAA言語研究について
38.10. 3	猪 木 正 道 (京大・法)	東南アジア研究のための留学について
	口 羽 益 生 (龍大……コーネル大学留学)	
	飯 島 茂 (京大……ワシントン大学, カリフォルニア大学留学)	
	荻 野 和 彦 (京大……カセツェート大学留学)	